

神の律法を捨てた民

ホセア書4章

あなたは知識を捨てたゆえに、わたしもあなたを捨てて、わたしの祭司としない。あなたにはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。(6)

この章からは、ゴメルの話から離れて、イスラエルに対する主の言葉が記されています。神の真実に背き、偶像礼拝に陥ったイスラエルに対して神の裁きが臨むことが告げられます。主なる神がイスラエルに対して裁きをくだされるのは、彼らが神を捨てたからです。「わたしの民は知識がないために滅ぼされる」(6)。ここで言われる「知識」とは、この世の知識ではなく、神の言葉を通して与えられる神についての知識です。神の民でありながら、彼らは神を知ろうとしないのです。そればかりか、彼らは心の中から律法の言葉を消していききました。「あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに……」。人の心の中から神の言葉が消えていくとき、神の存在そのものがその人のうちから消えていきます。神のことなどどうでもよくなり、自分の思うままに生きるようになるのです。ここには神の言葉を捨てた神の民がどのような状態に陥ったのが語られています。「ただのろいと、偽りと、人殺しと、盗みと、姦淫することのみで、人々は皆荒れ狂い、殺害に殺害が続いている」(2)。神の言葉を捨てて神の存在を消し去るとき、人はもはや人ではなく、獣になつてしまうのです。

わたしたちは神の言葉を捨ててはなりません。聖書の言葉に耳を傾け続けることを通して、わたしたちは主のご臨在を心の内に形づくっていくことになるのです。